

自 己 評 価 表

愛媛県立三崎高等学校
学校番号(37)

教育方針	生徒一人一人の個性を尊重し、ゆとりある伸び伸びとした学習活動を推進することにより、たくましく生きる力を育成する。	重点目標	1 進路決定100%に向け、一人一人に応じた指導を徹底する。 2 部活動と学校行事を充実させ、豊かな人間性を育てる。 3 地域に根ざした学校づくりとボランティア活動を積極的に推進する。 4 基本的な生活習慣を確立し、高い規範意識を育てる。 5 人権意識を高め、いじめや差別のない社会の実現を目指す。		
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	重点目標達成のための実践	<u>本校の重点目標を理解し、その実現に向けて創意工夫をしながら実践に励む。特に地域と連携した教育活動を積極的に行う。</u>	A	昨年度より本格的に全国募集に取り組んだ成果として多くの新入生を迎えることができた。個を大切にし、生徒一人一人を育てる取組を継続しつつ、コロナ禍で苦慮することも少なくなかったが、工夫協力することで積極的な教育活動につなげることができた。	全国募集の成果により、新たな三崎高校や地域の魅力発信につながっている。この流れを大切にし、地元伊方町や八幡浜市の中学生に積極的に選んでもらえる学校として更なる魅力化を推進する。
	業務改善を目指す円滑な組織運営	<u>業務の精選と情報の共有化を図るとともに、報告、連絡、相談体制を充実させ、限られた時間の中で自己の役割を果たす。</u>	B	校務支援システムの充実により、情報の共有化や事務処理の効率化が進んでいるが、教職員の負担は少なくない。教職員間のコミュニケーションはよいので、お互いをサポートし合える体制はあるが、更なる充実を目指したい。	生徒数の増加が予想され、寄宿舎の運営等で教職員の負担が増加することのないよう、魅力化や全国募集に関して、コーディネーター等の外部人材の充実について、伊方町と連携して進める必要がある。
	危機管理体制の充実	<u>本校の危機管理マニュアル及び防災避難訓練のあり方を随時見直すとともに、地域とも連携し、それらに基づいた活動を行う。</u>	A	今年度は保・小・中・高が連携した防災避難訓練を実施するなど、これまでよりも充実した活動に取り組めた。生徒も防災活動の研究と発信に取り組んでおり、防災RPGの開発を目指している。反省等を踏まえ、地域と連携しながら実践力を身に付けるよう、次年度以降の計画も進めている。	今年度は大雨や台風により寄宿舎生が避難するような事例があった。夜間の対応等では遠距離に在住する教職員が多いため、更なる地域との連携が必要であり、体制の充実を目指す。また、高校生が地域住民に対して行える避難支援についても実践力を高めるよう指導していきたい。
学習指導	家庭学習の充実	高い目的意識と主体的な家庭学習習慣を身に付けさせ、平均家庭学習時間150分以上を達成する。 A：150分以上 B：140分以上 C：120分以上 D：90分以上 E：90分未満	C	平均家庭学習時間は120分であり、目標を達成することができなかった。昨年度は158分。コロナ禍の中、オンラインでの学習機会が増えたことを前向きにとらえ、スタディ・サプリ等の学習教材の使用について学校全体で共有を図った。	より一層公営塾との連携を図り、定期考査に対する意識付けや動機付け、また進路への意識や進路実現への意欲の高揚を一層図っていききたい。また、家庭学習習慣が身に付いていない生徒に対しては学習方法から指導していく必要があるため、粘り強く継続的に指導していきたい。
	教科指導の充実	積極的に研修を行うことで教員の指導力向上を図り、生徒の授業評価ポイント4.0以上を目指す。 A：4.0以上 B：3.8以上 C：3.6以上 D：3.4以上 E：3.4%未満 <u>漢検2級取得者3人、実用英検2級取得者3人、商業資格検定1級取得者10人、合計16人以上を目指す。</u> A：16人以上 B：14人以上 C：12人以上 D：10人以上 E：10人未満	A E	Zoomを使用したオンライン授業実践研修会などを通して、指導力向上を図ることができた。また、全校生徒に対し授業評価アンケートを実施して、今年度も全ての教員が4.0以上をクリアできた。 漢検2級取得者0人、英検2級取得者0人、商業資格検定1級取得者2人であり、目標を達成することができなかった。コロナ禍の影響で受検が見送られた検定もあった。今年度新たに「世界遺産検定」を受検する生徒がおり、合格者も輩出できた。	引き続き、生徒からの評価をもとに授業内容を改善するとともに、ICT機器やスタディ・サプリを活用して分かりやすい授業を心掛けたい。さらに今後はアクティブラーニング的な要素を取り入れた教科指導の更なる充実にも努めたい。 検定の合格に向けて目標を立てて計画的に勉強したり、継続した勉強を続けていったりできるような力を身に付けさせたい。また、検定取得に向け公営塾とも連携を図っていききたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

生徒指導	生活指導の充実	身だしなみ指導を毎月1回実施し、毎回不合格者0人を目指す。	B	身だしなみの大きな崩れはないが、軽微な点で指導を受ける生徒がいる。	学年が上がるにしたがって、指導される者の数の減少が見られる。入学当初の指導や事前指導を充実させ、風紀委員会と連携して意識を高めさせたい。
	交通安全指導の充実	毎月1回交通安全指導日进行、通学路の交通指導を行う。ヘルメットの確実な着用を呼びかけ、自転車・原付通学バイク生の無事故・無違反を目指す。	A	自転車のヘルメット着用は良好で事故はなかった。バイク通学生の事故もなく安全運転を心がけていた。	あらゆる機会を捉え交通安全指導を行う。バイク通学生については、二輪車安全運転講習会を実施し、無事故・無違反で通学させたい。
	奉仕の精神を養う教育の充実	地域に貢献する奉仕活動を1回、校内の環境美化意識を高める奉仕活動を2回実施する。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の方々との合同奉仕活動は実施できなかった。	日常生活の中で環境美化に対する心を育て、自ら行動できる態度を育てたい。
	主体性を育てる教育の充実	各クラスにおいて、各種専門委員を1人2役経験させる。	A	各クラスの人数にばらつきがあるが、配慮をいただき責任を持って委員会活動が行えた。	複数の委員会を経験することで、物事を多面的に捉える広い視野を持たせたい。
進路指導	キャリア教育の充実	社会人やキャリアコンサルタントによる講演会を年2回以上実施する。	B	新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、講演会に変えて、南予地域の企業11社による合同企業説明会を開催した。	講演会開催や愛媛県内の企業と連携したキャリア形成の取組について系統的に進めていくことを考えている。
	多様な進路希望に応じた指導の充実	進路情報を学期に1回以上発信し、進路に対する意識の向上を図る。	B	進路意識については、企業説明会、進路情報の掲示や配布、各授業、HR活動等を通して向上を図った。	進路実現に対する意識の向上が、まだ不十分であるため、日々の学習や進学関係行事について、その内容を検討する。
		進学、就職内定率100%を達成する。 A : 100% B : 95% C : 90% D : 85% E : 85%未満	A	多様な進路希望への対応が困難な面があるが、進学、就職内定率については100%になる見通しである。	社会で求められている資質や能力が変化しているため、個別指導に加え、生徒自身が自ら考え、選択するような取組を行う。
人権教育	人権学習の充実	人権・同和教育ホームルーム活動の年3回実施や年1回以上の人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。	A	予定通り実施した。ホームルーム活動により、生徒の人権意識の高揚に努められた。	様々な交流や研修会を通じて、生徒一人一人の人権意識が高揚するよう促していきたい。
		人権だよりを年6回以上発行し、人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実させる。 A : 6回以上 B : 5回 C : 4回 D : 3回 E : 3回未満	A	生徒が中心となって、一つのテーマのもと今年度は多くの「人権だより」を発行することができた。また「人権だより」を通して、仲間の大切さを伝えることができた。	来年度も活発に活動し、また違う視点でテーマを考え、人権意識の高揚に努めていきたい。
	情報モラル教育の充実	授業や講演会などを通して携帯電話やインターネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。	A	授業において、生徒に対して情報発信の方法やメディアとの関わりについて理解させた。	様々な場において、情報モラルについての理解がさらに深められるように努力していきたい。
	異文化理解の充実	国際交流会等を通して異文化への関心を高め、異文化を尊重する態度を育てる。	B	海外への短期研修希望者が関心を持って活動した。	授業内での交流を充実させ、短期留学を経験させ、校内での報告会を実施したい。
現職教育	研修の充実	校内研修を年5回実施するとともに、校外研修の活用や研修報告を通して、資質向上を図る。	A	学校の実態やニーズに合わせた研修を行うことができた。	今後も学校の実態やニーズに合わせた研修ができるように工夫していきたい。
		年5回以上の研究授業や公開授業時のアンケート・教員相互の授業参観等を通して、授業改善に役立つ。	A	5回以上の研究授業を実施し、教員の参加率も高く、活発な意見交換も行われた。	研究授業以外でもお互いの授業改善のために、日々授業公開を行っていきたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

保健・安全管理	保健活動の充実	毎月1回、生徒の健康課題に沿った「保健だより」を発行する。また、生徒保健委員会活動を充実させ、健康に関する情報発信と意識向上に努める。	A	感染症予防についての「保健だより」を毎月発行した。生徒保健委員会活動では、掲示物の作成、校内放送等の啓発活動を行った。	生徒保健委員会の年間テーマを決め、自主的に運営できるよう充実させていきたい。
		生徒に対し、専門家による健康に関する講話を開催する。	C	新型コロナウイルス感染症の流行により、外部講師の講話は開催できなかった。	実施方法や内容等を検討し、生徒の健康意識を高める取組を行っていきたい。
	衛生管理の徹底	毎月1回衛生委員会を開催する。	A	教職員健康管理医と連携し、感染症対策を中心に指導・助言をいただき、臨時開催も含めて毎月1回以上実施できた。	衛生委員会で協議した内容を、迅速に教職員へ周知し、感染症対応や職場環境の改善に活かせるように努めたい。
		教職員に対し、教職員健康管理医による講話を年1回開催する。	B	感染症対策で講話は延期としたが、教職員健康管理医による個別の健康相談において対応した。	教職員健康管理医と連携し、個別の健康相談をさらに充実させたい。
安全管理の徹底	毎学期1回安全点検を実施する。	A	毎学期1回安全点検を実施できた。	日常点検も重視し、事務課と協議し、早期の事後措置を徹底したい。	
図書活動	図書活動の充実	朝の読書の質の向上を目指すとともに、ブックトークなどを通じて読書に対する意識を向上させる。	B	いくつかのクラスで、朝読書を実施し、読書に向けた意識を向上させることができた。	全クラスで、朝読書の実施を徹底したい。
		図書委員会で「図書館だより」を年間3回以上発行し、図書館活動を生徒・保護者に啓発する。	B	「図書館だより」を1回発行することができた。	図書委員を中心に「図書館だより」を年間3回以上発行し、図書室や図書の情報発信をしていきたい。
		図書館来館者数延べ300人、年間一人あたりの貸出数3冊以上を目指す。 A：300人以上 B：280人以上 C：260人以上 D：240人以上 E：240人未満	C	年間来館者数は、264人であった。	図書室の環境を一変させ、より多くの利用者が増えるよう工夫していきたい。
PTA活動	PTA活動の充実	ホームページや「PTA便り」を通して、旬な情報を伝え、学校行事への積極的参加を促す。	B	ホームページがリニューアルされ見やすくなった一方、閲覧数の平均は300未満であった。「PTA便り」は定期的に発行できた。	ホームページに限らず、SNSなどのツールも活用し、情報発信を工夫したい。
		PTA総会の出席率55%以上を目指す。 A：55%以上 B：50%以上 C：45%以上 D：40%以上 E：40%未満	B	PTA総会は書面開催となり、書面表決書の提出率は80.5%であった。結果的に多くの保護者の意見を集約できた。	学区外や県外の生徒が増え、保護者も来校しにくい状況であるため、場合によってはリモートでの開催も行いたい。
事務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	光熱水費・消耗品費の節約を啓発するとともに、計画的で効果的な予算執行をする。	B	教職員への節約意識の啓発に努めるとともに、計画的な予算執行や予算把握にも努めたことで、効果的な予算執行を行うことができた。	更なる経費節減のため、教職員への意識啓発を図っていきたい。また、費用対効果を考慮した予算執行に努めたい。
		迅速かつ適正な事務処理をする。		進捗状況の管理を徹底することで、迅速かつ適正な事務処理を行うことができた。	適正な事務処理ができるよう、研修の充実や確認体制の徹底を継続していきたい。
地域協働	地域と連携した取組	定期的な校内巡視により、不良箇所の早期発見・早期対応に努め、安全確保に努めるとともに施設の長寿命化を図る。屋外環境の保全と美化に努める。	A	不良箇所の早期対応により安全確保に努めることができた。また、樹木管理等、屋外環境の保全や、通学路の美化も積極的に取り組むことができた。	施設担当者による点検を強化し、不良箇所や施設の老朽化対応に努めたい。また、屋外環境の保全と美化は継続して取り組んでいきたい。
		地域行事への参加、年10回以上を目指す。 A：10回以上 B：8回以上 C：7回 D：6回 E：6回未満	E	新型コロナウイルス感染症の流行により、多くの地域行事が中止になる中、感染予防に努めながら地域行事等に5回参加し、積極的に活動することができた。	新型コロナウイルス感染症対策も含め、オンラインイベント等も積極的に企画・参画していきたい。
	生徒の自主的な活動の充実	地域活性化に関するコンクール等へ積極的に応募する。	A	「えひめ地域づくりアワードユース2020」参加（2次審査進出）、「EGFキャンパスアワード」（優秀賞）、「八幡浜ソーシャルビジネスチャレンジコンペ」等のコンクールに5回以上応募した。	来年度は、これまで参加していたコンクールだけではなく、生徒の関心や教科の特性に合わせたコンクール等にも積極的に応募したい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。